

2025 年度第 5 回ふれあい講座実施報告

実施日時

2026 年 2 月 13 日 (金) 19:00~20:30

場所

JICA 沖縄体育館

来場者数 60 名 (一般 38 名) (ゲストスピーカー研修員 13 名) (関係者 9 名)

JICA 研修員 (出身国)

地域に根ざしたインクルーシブアプローチによる障害者の社会参加 (B) コース

(バングラデシュ) Ms. シャイラ、Mr. ラナ、(エジプト) Ms. ワラー、(フィジー) Mr. デビット/Mr. ケム*介護者、(ジャマイカ) Ms. テレーズ、(マーシャル諸島) Ms. ジャネット、(モンゴル) Ms. ブヤン、(サモア) Ms. スーリア、(南アフリカ) Mr. ベンジャミン、(スリランカ) Ms. ダミカ、Mr. ティラック、(ウクライナ) Mr. ルスラン

当日の様子

第 5 回ふれあい講座は、「地域に根ざしたインクルーシブアプローチによる障害者の社会参加 (B) コース」で学ぶ研修員 10 か国 13 名をゲストスピーカーに迎え開催しました。

今回は初の試みとして、参加者がテーブルを囲む形で着席し、研修員とより近い距離で交流できるよう工夫しました。はじめに研修員の自己紹介を行った後、アイスブレイクとして「ミュージック・ボール」を実施しました。沖縄音楽に合わせてボールを隣の人へ渡していき、曲が止まった時にボールを持っている人が「お題カード」を引き、カードに描かれたイラスト (動物・スポーツ・楽器・乗り物・食べ物など) をジェスチャーや音声で表現し、他の参加者が当てるゲームです。各テーブルは笑いや拍手に包まれ、緊張がほぐれた和やかな雰囲気となりました。

その後、リラックスした雰囲気の中で恒例のふれあいタイム (研修員によるお国紹介・Q&A) を行いました。紹介方法はテーブルごとに異なり、パソコンや携帯電話を活用して、街並みや食べ物、家族の写真、人々の暮らし、民族ダンスの動画などを見せながら説明していただきました。

スリランカのダミカさんは、「JICA で準備いただいた写真資料は古いです」と笑顔で指摘し、現在のオフィスビルが立ち並ぶ都市の風景を紹介するとともに、4 つの宗教が共存し、互いを認め合いながら生活していることを話してくださいました。また、ウクライナのルスランさんは、自己紹介の中で、国家が困難な状況にある中でも「一日一日を大切に、出会えた人々との時間を精一杯楽しみ、楽しい時間を共有していきたい」と語られていたことが印象的でした。

ふれあいタイムの後は、「災害時における外国人向けのピクトグラム」カードを使った【かるた】ゲームを実施しました。各テーブルで自主的に「読み手」を決め、残りのメンバーでプレイしました。どのテーブルからも歓声が聞こえ、特に南アフリカのベンジャミンさんのテーブルでは、元気いっぱいの小学生たちが一喜一憂しながら楽しんでいる姿が見られました。

テーブルを囲む配置としたことで参加者同士の距離が縮まり、写真を撮り合ったり、携帯の翻訳アプリを活用して言葉の壁を越えたりするなど、交流が自然に生まれる場面が多く見られました。最後のカチャーシーでは、参加者が身振り手振りで研修員に踊り方を伝え合いながら、会場全体が一体となって楽しく踊りました。

2025 年度 (令和 7 年度) 最後の回は、少人数ながらも親密度の高い、温かく新鮮なふれあい講座となりました。

この 1 年間、足を運んでくださった市民・県民の皆さま、ありがとうございました。

次年度は 6 月からスタートします。どのような国の研修員に出会えるのか、ぜひ楽しみにしててください。

特記事項

特になし

会場の様子

オープニング



JICA 研修員の自己紹介



10ヶ国から参加



アイスブレイク



ピクトグラム神経衰弱



ピクトグラムかるた



ふれあいタイム



研修員と一緒に



パフォーマンスタイム



集合写真

